

兵庫県立東播磨高等学校 令和6年度 学校評価報告書

学校評価（生徒・保護者 アンケート結果）

1 学校教育方針

第3期「ひょうご教育創造プラン」で掲げられている「未来への道を切り拓く力」の育成に取り組むとともに、人間力を高め、こころ豊かで自立する人づくりを目指す。また、時代の変化にいち早く対応できる学校として、地域に信頼され、誇りとされる学校を目指す。

2 重点目標

- (1) 生徒・保護者・地域に信頼される「安全で安心な学校づくり」を推進する。
- (2) 確かな学力の育成と希望進路実現を目指す。
- (3) 「探究学習」を推進し、これからの時代を逞しく生きていく生徒を育てる。
- (4) ICT化を進め、新しい学校運営を推進する。
- (5) 広報活動を積極的に展開し、適切な情報発信により学校の魅力を伝える。
- (6) 学校の組織力を高めるとともに、健康で働きがいのある職場づくりを推進する。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

昨年度との比較や改善点もしっかり明記されており、改善も見られる。特に問題点は見当たらない。

5 総合的な学校関係者評価

・【広報】について動ける所から動くのがよい。・【進路】について東播磨高校の魅力进行分析し発信して欲しい。進路の手引きに、卒業してから5年後・10年後について掲載するのもよい。・【勉強と部活動の両立】について、生徒は両立できていないと感じていても、保護者は頑張っていると感じることもある。
 ・【地域連携】について、稲美町を大事にすることこそが長期的視点で見ると大事である。今のうちから種をまいておかないと苦労する。学校評議員として、協力できることは何でもする。
 ・その他 生徒の自己肯定感が低いことについては大学でも同じ。自己肯定するための言語がない。先生方から様々な「ことば」を生徒に発信して欲しい。

3 学校評価（生徒・保護者 アンケート結果）

No.	評価項目	生徒								保護者								差 生徒-保護者 (%)	結果及び改善の方策
		割合 (%)				令和6年度		令和5年度		割合 (%)				令和6年度		令和5年度			
		評価4	評価3	評価2	評価1	評価平均	評価	評価平均	評価	評価4	評価3	評価2	評価1	評価平均	評価	評価平均	評価		
<評価基準>	4…とてもそう思う 3…そう思う 2…あまりそう思わない 1…まったくそう思わない																		
<評価>	A…3.3以上 B…2.8以上 C…2.3以上 D…2.3未満																		
1	学校安全（交通ルール、生活安全、防災）を意識して学校生活を送っている。	41.1	55.3	3.1	0.5	3.37	A	3.34	A	26.8	68.4	4.8	0.0	3.22	B	3.24	B	0.15	・項目1と項目5において、本校生徒は学校安全を意識し、ルールを守るなどの規範意識が高く、時間を守る、挨拶を行うなど規則正しい生活習慣を身につけることができている。 ・項目2について、勉強と部活動について整理し、見直すべきところは見直す。 ・項目3について、学習に積極的に取り組み、学力が向上している生徒もいる。学習目標や進路目標を設定させ、日々の取り組みの重要性を意識させる。課題等を活用して学習習慣を身につけさせる。 ・項目8について、コロナ禍で一部の学校行事への参加を制限していたことが、ほぼコロナ禍前の水準に戻ったことで、保護者の評価が上がったと考えられる。 ・項目12について、教室棟トイレの改修工事が完了した結果、評価が上がったと考えられる。今後も継続して校内美化を推進していく。 ・項目14について、広報部を中心に、ホームページ等で学校の情報をタイムリーに発信している。広報活動についてPDCAを繰り返し向上を目指す。 ・項目16について、保護者の満足度は高いが、生徒の評価がAになるような学校にするために、教員が知恵を出し合って教育活動を行っていき、各学年・各部署で取り組みを考える。
2	勉強と部活動の両立ができている。	14.6	45.7	31.8	7.9	2.67	C	2.72	C	18.2	51.7	24.2	5.9	2.82	B	2.79	C	-0.15	
3	予習・復習などの学習習慣が身につけている。	7.4	32.8	51.4	8.4	2.39	C	2.55	C	11.5	40.9	38.7	8.9	2.55	C	2.57	C	-0.16	
4	日々の授業に意欲的に取り組み、探究学習や成果発表に進んで参加できている。	15.1	64.4	18.7	1.7	2.93	B	3.03	B	13.4	58.7	25.3	2.6	2.83	B	2.81	B	0.10	
5	挨拶や規則、ルールを守って学校生活を送っている。	54.5	43.5	1.7	0.3	3.52	A	3.54	A	12.3	73.2	13.8	0.7	2.97	B	2.96	B	0.55	
6	自分の進路について、情報を得ることができている。	24.4	57.4	17.2	1.0	3.05	B	2.97	B	11.9	62.8	24.9	0.4	2.86	B	2.85	B	0.19	
7	進路ガイダンスや進路ホームルームを通じて、自分の進路を考えている。	25.3	59.1	14.6	1.0	3.09	B	3.04	B	7.8	67.3	23.4	1.5	2.81	B	2.81	B	0.28	
8	学校行事全般において、積極的に参加・協力している。	38.5	52.7	8.6	0.2	3.30	A	3.38	A	10.4	61.7	27.1	0.7	2.82	B	2.72	C	0.48	
9	「個人の尊厳」を念頭に、人権ホームルーム等を通じて、人権意識を高めている。	29.0	64.9	5.7	0.3	3.23	B	3.33	A	8.2	70.6	19.0	2.2	2.85	B	2.89	B	0.38	
10	いじめアンケートを実施し、いじめの未然防止と早期発見・早期解決に向けて取り組んでいる。	32.0	59.5	8.2	0.3	3.23	B	3.25	B	5.6	71.4	20.4	2.6	2.80	B	2.82	B	0.43	
11	ICT機器を活用した、わかりやすい授業が行われている。	29.2	60.8	9.5	0.5	3.19	B	3.00	B	13.4	70.3	14.5	1.9	2.95	B	2.88	B	0.24	
12	清掃・美化活動などを中心に、環境美化に力を入れている。	21.8	61.9	14.8	1.5	3.04	B	2.97	B	7.4	68.8	22.7	1.1	2.83	B	2.74	C	0.21	
13	本校の教員は個人面談等で相談や悩み事に適切に対応している。	24.9	66.0	8.1	1.0	3.15	B	3.14	B	10.0	64.7	21.9	3.3	2.81	B	2.85	B	0.34	
14	本校はホームページでの情報発信が充分に行われている。	15.6	63.6	19.2	1.5	2.93	B	2.84	B	6.7	59.5	30.9	3.0	2.70	C	2.67	C	0.23	
15	本校は、熱中症対策や感染症予防対策に基づいた学校活動を実践している。	23.4	64.8	10.7	1.2	3.10	B	3.09	B	7.4	70.6	19.7	2.2	2.83	B	2.90	B	0.27	
16	本校に入学して良かった。	30.8	60.1	7.7	1.4	3.20	B	3.15	B	37.2	55.8	6.7	0.4	3.30	A	3.24	B	-0.10	

学校評価（教職員 アンケート結果）①

資料-2(1)

<評価基準> 4・・・とてもそう思う 3・・・そう思う 2・・・あまりそう思わない 1・・・まったくそう思わない

<評価> A・・・3.3以上 B・・・2.8以上 C・・・2.3以上 D・・・2.3未満

		割合 (%)				令和6年度		令和5年度		結果分析	改善方策
		評価4	評価3	評価2	評価1	評価平均	評価	評価平均	評価		
1	行事計画の立案と連絡調整の徹底に努める。	9.4	71.9	15.6	3.1	2.88	B	2.93	B	・様々な行事がコロナ前の形態に戻ったことに加え、昨年度からの変更や改善すべき計画が多々あり、後手に回る場合があった。	・より一層、見通しをもった行事計画の立案と各部・各学年との綿密な連携に努める。
2	総務 清掃区域の適正化を図り、環境整備に努める。	15.6	62.5	21.9	0.0	2.94	B	3.12	B	・全校生徒による特別棟のワックスがけや舎外清掃を実施することができた。	・清掃計画については、見通しをもって立案する。また根本的な修繕の必要がある箇所について、事務室とも協議をしながら進める。
3	3年間を見据えた人権LHR計画の推進と、職員の指導力向上を目指す研修会を立案・実施する。	6.3	56.3	34.4	3.1	2.66	C	2.66	C	・人権HRに向けた拡大人権研修会の実施が十分でなかった。	・研修会を通じて、人権意識の高揚に努める。
4	HPを積極的に更新し、本校の情報発信の充実促進を行う。	15.6	62.5	21.9	0.0	2.94	B	3.15	B	・HPのシステムを変更するのに時間がかかったが、おおむね積極的に更新することができた。	・本校の情報発信については、HPを中心に今後も行う。認証システムを簡略化することにより、各学年、各部から発信できるシステムを構築する必要がある。
5	広報 学校案内・リーフレットの作成・配布を行い本校の魅力を発信させる。	15.6	71.9	9.4	3.1	3.00	B	2.93	B	・学校説明会、オープンハイスクール参加人数についてはおおむね目標をクリアしたように思う。訪問中学校の範囲を広げた広報活動が参加人数の結果として出たと思うが広報活動の動きが形となってあらわれにくいことがマイナスの結果に出ていると考えられる。	・学校案内、リーフレットの作成については前年度から準備を行い、中学校訪問段階には今年度の案内等を配布できるようにする。
6	学校説明会・オープンハイスクールの参加人数確保のための広報活動を行う。	15.6	68.8	12.5	3.1	2.97	B	2.88	B		・広報ポスターを新たに作成し、中学校だけでなく、塾や公共機関等にも配布を行う必要がある。
7	学校教育目標に即した教育課程の編成および新教育課程を検討する。	3.1	84.4	12.5	0.0	2.91	B	3.20	B	・新教育課程3年目になる51回生からの教育課程改編に向けて、ある程度の方向性を示すことができた。	・教育課程の編成については、よりよい教育課程の編成に向けて、今後も継続審議を行う。人文類型の選択科目については、さらに検討していく必要がある。
8	教務 授業公開やアンケートを踏まえ、生徒の学力向上策を研究し、教師の授業力を高める。	9.4	56.3	28.1	6.3	2.69	C	2.93	B	・授業公開やアンケートについて、周知徹底が不十分であった。ただ、訪問指導、教育実習等の機会をとらえ、授業を公開し、意見交換することはできた。	・普段から、気軽に授業を見学し合える雰囲気を作り、公開授業の案内を明確にしていく。
9	業務改善の一環として、出欠統計や成績処理など校務支援システムの効果的な活用を図る。	15.6	62.5	21.9	0.0	2.94	B	3.07	B	・新教育課程での校務支援システムの出欠入力や調査書等の作成もスムーズにできた。職員も操作に慣れ、業務の改善に繋がっている。	・校務支援システムの設定でのミスを極力少なくし、さらに、業務の効率化をすすめる。それによって、生徒にかかわる時間を増やせるようにする。
10	生徒支援 登校指導を全職員で行い生徒情報を共有することで、共通認識や理解に基づく一貫性のある指導を行う。	9.4	75.0	15.6	0.0	2.94	B	2.78	C	・東播磨高校の生徒支援は大きな変革期のピークを終え、学校の雰囲気も少しずつ落ち着いてきている。教員全体も指導の行い方について、少しずつ落ち着いてきたのではないかと考える。生徒の様子を見ながら、教員の一貫性のある生徒支援の確立に向けて、引き続き登校指導時の気づきや支援の方法を吸い上げ、全校集会等で生徒・教員で共有が必要であると考ええる。	・学校生活ルールや支援方法を全職員で共有することによって、教員が生徒に一貫性のある支援をしやすい体制が少しずつ整ってきた。その為に、全職員で取り組んでいる登校指導からの気づきや疑問点、支援の方法を共有できるように全校集会等を利用し生徒・教員の共有を目指す。
11	生徒会活動・ホームルーム活動の活性化と充実のため、生徒会を中心とした学校行事の運営を行う。	25.0	71.9	3.1	0.0	3.22	B	2.93	B	・現状の行事運営方法では、生徒(生徒会)だけで運営することは難しいように感じ、教員の支援のもと、生徒が主体的に活動できる行事運営を目指し生徒(生徒会)とともに学校行事の運営ができ始めている。	・生徒会活動に関しては、引き続き教員の支援のもと生徒(生徒会)が主体的に効率よく活動できる行事運営方法へ改革を推し進めていく。その為にも生徒会行事運営改革に際し、生徒会執行部専属の教員(部顧問)の配置が必要であると考ええる。

学校評価（教職員 アンケート結果）②

資料-2 (2)

<評価基準> 4・・・とてもそう思う 3・・・そう思う 2・・・あまりそう思わない 1・・・まったくそう思わない

<評価> A・・・3.3以上 B・・・2.8以上 C・・・2.3以上 D・・・2.3未満

		割合 (%)				令和6年度		令和5年度		結果分析	改善方策			
		評価4	評価3	評価2	評価1	評価平均	評価	評価平均	評価					
12	保健	保健だよりや集会等の健康教育、個別の保健指導を通じて、個々の健康課題に対応できる能力の向上を目指す。	9.4	84.4	6.3	0.0	3.03	B	3.15	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講演・講話、保健だよりを通して、生徒が心身の健康と安全について知識を得る機会を設けることができた。 ・教員、生徒の理解・協力のもと、熱中症対策及び感染症対策を継続して行っているが、特に感染症対策については意識が薄れているように感じる。 ・カウンセラー、学年団、関係職員、状況に応じて外部機関と連携し、生徒や保護者の心身のサポートに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの作成については、生徒保健委員が全校生に発信したいという意思をもって、テーマ選択から主体的に取り組ませたい。 ・感染症対策については、定期的な周知を継続し、学校全体で換気、手洗いの意識を定着させる必要がある。 ・引き続き関係部署で連携をとりながら、生徒、保護者の悩みに寄り添ったカウンセリングが提供できることを目指したい。 		
13	保健	生徒保健委員会による熱中症予防・感染症対策などの働きかけを通して、全校生の健康に関する意識を高める。	21.9	78.1	0.0	0.0	3.22	B	3.34	A				
14	保健	生徒個々の心身の健康問題に応じて、学年・キャンパスカウンセラーと連携し対応に努める。	25.0	75.0	0.0	0.0	3.25	B	3.40	A				
15	キャリア支援	学部学科説明会（1年）大学模擬授業（2年）大学説明会（3年）などの進路行事を企画・実施する。	18.8	71.9	9.4	0.0	3.09	B	3.10	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大学説明会などの進路行事は、予定通り実施できたが、各学年に行事の意図を明確に提示するべきであった。 ・新課程入試が始まり、入試の変化に対する情報提供が、各先生方や保護者に向けても、不足していたように感じられる。 ・「進路のてびき」は、本校の入試データ、最新の入試動向などを詳細に見ることができ、保護者の方々にも、入試についての情報を提示することができたと感じる。しかし、進路説明会などの実施については、キャリアの方から実施を働きかけるべきであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会の意図を明確にし、目的意識をもって生徒たちが主体的に参加できるような準備が必要である。 ・進路通信が発行が、不十分出会ったように感じる。些細なことでも、学年団や保護者の方に情報を提供できる方策を考えたいと思う。 ・保護者だけでなく、生徒自身がより活用できるような「進路のてびき」を作成したい。実施に受験を終えた生徒にアンケートをとるなど、内容の充実を図る。 		
16		新課程入試やそれに伴う受験環境の変化に対応できるよう情報収集し、生徒・保護者に提供する。	18.8	68.8	12.5	0.0	3.06	B	2.88	B				
17		本校の実情に合った「進路のてびき」を作成し、また生徒・保護者の進路説明会などで学年と連携を図る。	21.9	65.6	12.5	0.0	3.09	B	3.02	B				
18		授業計画の見直しを図り、各活動における目的を明確化する。	12.5	56.3	28.1	3.1	2.78	C	2.83	B			<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省をもとに授業内容は修正している。新着任オリエンテーション、指導案、担当者議で活動の目的は伝えてきたが、理解できていないということを確認した。 ・授業で使う資料はTeamsで共有し、グループ活動もオンラインで行えるようにした。生徒の方は徐々にオンラインでの作業に慣れてきているように思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは気を遣って打ち合わせや研修会は控えてきたが、実施の回数を増やす方向で検討をする。
19		探究における協働学習を効果的にするために、ICTの積極的な活用を促す。	25.0	68.8	6.3	0.0	3.19	B	3.12	B			<ul style="list-style-type: none"> ・使わなければならないので、引き続きICT活用を前提とした授業計画を立てる。 ・与えられたきっかけを活かすことができるような雰囲気づくりを職員に願う。 	
20	探究活動を通じて自分の在り方を見つめ直す機会を与え、進路意識の向上につなげる。	6.3	75.0	18.8	0.0	2.88	B	2.83	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間探究、エナジード、探究のテーマ設定などを通して、自分自身の在り方について考えるきっかけを与えている。昨年度から進路・探究につながるイベントの告知をしている。 				

学校評価（教職員 アンケート結果）③

資料-2(3)

<評価基準> 4・・・とてもそう思う 3・・・そう思う 2・・・あまりそう思わない 1・・・まったくそう思わない

<評価> A・・・3.3以上 B・・・2.8以上 C・・・2.3以上 D・・・2.3未満

		割合 (%)				令和6年度		令和5年度		結果分析	改善方策
		評価4	評価3	評価2	評価1	評価平均	評価	評価平均	評価		
21	第1学年	【学習・進路】基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学ぶ姿勢を育てる。	9.4	84.4	6.3	0.0	3.03	B	3.06	B	学習については3年間を見据えた導きが必要であると感じる。いわゆる一般的な学力はもっと伸ばしていく。進学校として模試成績等では偏差値50を下回ることが無いようにしなければならない。生徒の潜在能力の高さに甘えるのではなく、教員側が生徒のやる気に火をつけるような声掛けができるようにならなければならない。明確な目標設定をし、ステップを踏ませていけるように細かく指導計画を見直す必要がある。リーダーの育成も課題である。生徒の自己肯定感を高め、生徒が成功体験を積み重ねられるように、これも導き方を工夫していく。
22		【生指・保健】学校行事やクラス活動、部活動を通じて心身の健康を図る。	12.5	84.4	3.1	0.0	3.09	B	3.03	B	
23		【生指・生活】基本的な生活習慣を身に付け、信頼できる人間関係を育てる。	9.4	90.6	0.0	0.0	3.09	B	2.92	B	
24	第2学年	【学習・進路】進路意識を高め、自律的な学習習慣を確立させる。	9.4	81.3	9.4	0.0	3.00	B	3.08	B	進路意識の高まりについては、1学期より主体的に生徒が行動するような試みを実施し、進路実現を考えるきっかけがつかめたことが大きい。また中堅学年としての自覚や他者への配慮などを含め、何事も自分事として捉える意識は学校内での行事や修学旅行などを通して育まれてきたと感じられる。特に修学旅行では、時間やルールを順守し、他者を慮る行動が見られた。
25		【生徒指導】中堅学年としての自覚を持ち、学習と部活動・生徒会活動の両立に励ませる。	12.5	84.4	3.1	0.0	3.09	B	2.87	B	
26		【生指・生活】集団の中で自らの役割を自覚し、他者に配慮できる姿勢を育てる。	9.4	84.4	6.3	0.0	3.03	B	2.87	B	
27	第3学年	【学習・進路】進路実現に向けて、確かな学力を身に付けさせる。	9.4	87.5	3.1	0.0	3.06	B	2.90	B	1年次より「3年生で18歳、成人となる」ことを意識させ続けたことが、全体的にポイントの上昇につながったといえる。「最高学年としての模範的行動」については、「惜しまれて卒業する」ことを呼びかけてきたが、元々の生徒のキャパシティ不足を補うにはあと一歩足りなかったようである。
28		【生徒指導】最高学年としての意識を持ち、下級生の模範とならせる。	12.5	71.9	15.6	0.0	2.97	B	2.74	C	
29		【生指・生活】社会の一員としての自覚と責任を持たせる。	12.5	78.1	9.4	0.0	3.03	B	2.82	B	
30	学校運営	【組織体制】本校は、教育目標の達成に向け、各部署の連携や情報の共有に努めるなど組織的な学校運営を推進している。	6.3	56.3	34.4	3.1	2.66	C	2.44	C	・各部署の連携や情報共有は改善の傾向にあるが、依然として課題を感じている割合が多く、協力した取り組みが必要である。 ・今年度、組織改編を行い、各部署の役割を明確にし、学校運営に取組んでいる。今後は、PDCAを動かさせ、各部署の連携や情報共有を深めるように取り組む。 ・健康面の推進、ハラスメントへの意識が高まってきた。 ・風通しの良い職場づくりのために、職員室に打ち合わせスペースを設置するなど、職員の職場環境づくりを推進する。
31		【環境衛生】本校は、ハラスメントのない健康で明るく風通しの良い職場づくりを推進している。	6.3	71.9	21.9	0.0	2.84	B	2.66	C	
32		【地域連携】本校は、教育活動を通じて地域社会に貢献し、地域から信頼される進学校としての学校運営を推進している。	6.3	81.3	9.4	3.1	2.91	B	2.68	C	

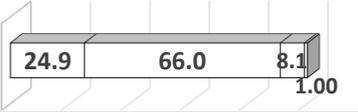
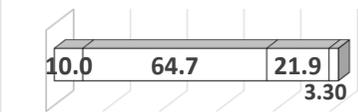
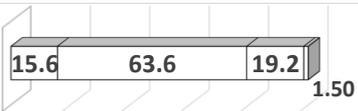
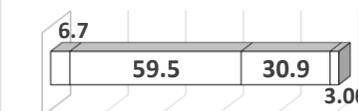
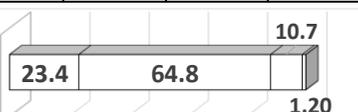
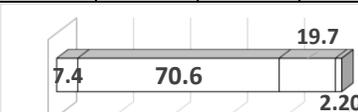
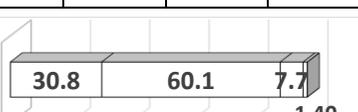
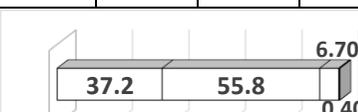
・探究活動・ふるさと貢献活動・ボランティア・部活動等で地域活動を活発に行った。今後は、コミュニケーションスクール実施に向けた体制づくりを推進する。

令和6年度 東播磨高等学校 学校評価 結果 (生徒と保護者)

付録-1

	評価項目	生徒 (%)					保護者 (%)					生徒-保護者 (%)
		評価4	評価3	評価2	評価1	平均	評価4	評価3	評価2	評価1	平均	
1	学校安全 (交通ルール、生活安全、防災) を意識して学校生活を送っている。	41.1	55.3	3.1	0.5	3.37	26.8	68.4	4.8	0.0	3.22	0.15
						A					B	
2	勉強と部活動の両立ができている。	14.6	45.7	31.8	7.9	2.67	18.2	51.7	24.2	5.9	2.82	-0.15
						C					B	
3	予習・復習などの学習習慣が身についている。	7.4	32.8	51.4	8.4	2.39	11.5	40.9	38.7	8.9	2.55	-0.16
						C					C	
4	日々の授業に意欲的に取り組み、探究学習や成果発表に進んで参加できている。	15.1	64.4	18.7	1.7	2.93	13.4	58.7	25.3	2.6	2.83	0.10
						B					B	
5	挨拶や規則、ルールを守って学校生活を送っている。	54.5	43.5	1.7	0.3	3.52	12.3	73.2	13.8	0.7	2.97	0.55
						A					B	
6	自分の進路について、情報を得ることができている。	24.4	57.4	17.2	1.0	3.05	11.9	62.8	24.9	0.4	2.86	0.19
						B					B	

	評価項目	生徒 (%)					保護者 (%)					生徒-保護者 (%)
		評価4	評価3	評価2	評価1	平均	評価4	評価3	評価2	評価1	平均	
7	進路ガイダンスや進路ホームルームを通じて、自分の進路を考えている。	25.3	59.1	14.6	1.0	3.09	7.8	67.3	23.4	1.5	2.81	0.28
						B					B	
8	学校行事全般において、積極的に参加・協力している。	38.5	52.7	8.6	0.2	3.30	10.4	61.7	27.1	0.7	2.82	0.48
						A					B	
9	「個人の尊厳」を念頭に、人権ホームルーム等を通じて、人権意識を高めている。	29.0	64.9	5.7	0.3	3.23	8.2	70.6	19.0	2.2	2.85	0.38
						B					B	
10	いじめアンケートを実施し、いじめの未然防止と早期発見・早期解決に向けて取り組んでいる。	32.0	59.5	8.2	0.3	3.23	5.6	71.4	20.4	2.6	2.80	0.43
						B					B	
11	ICT機器を活用した、わかりやすい授業が行われている。	29.2	60.8	9.5	0.5	3.19	13.4	70.3	14.5	1.9	2.95	0.24
						B					B	
12	清掃・美化活動などを中心に、環境美化に力を入れている。	21.8	61.9	14.8	1.5	3.04	7.4	68.8	22.7	1.1	2.83	0.21
						B					B	

	評価項目	生徒 (%)					保護者 (%)					生徒-保護者 (%)
		評価4	評価3	評価2	評価1	平均	評価4	評価3	評価2	評価1	平均	
13	本校の教員は個人面談等で相談や悩み事に適切に対応している。	24.9	66.0	8.1	1.0	3.15	10.0	64.7	21.9	3.3	2.81	0.34
						B					B	
14	本校はホームページでの情報発信が充分に行われている。	15.6	63.6	19.2	1.5	2.93	6.7	59.5	30.9	3.0	2.70	0.23
						B					C	
15	本校は、熱中症対策や感染症予防対策に基づいた学校活動を実践している。	23.4	64.8	10.7	1.2	3.10	7.4	70.6	19.7	2.2	2.83	0.27
						B					B	
16	本校に入学して良かった。	30.8	60.1	7.7	1.4	3.20	37.2	55.8	6.7	0.4	3.30	-0.10
						B					A	

【結果及び改善の方策】

- ・項目1と項目5において、本校生徒は学校安全を意識し、ルールを守るなどの規範意識が高く、時間を守る、挨拶を行うなど規則正しい生活習慣を身につけることができている。
- ・項目2について、勉強と部活動について整理し、見直すべきところは見直す。
- ・項目3について、学習に積極的に取り組み、学力が向上している生徒もいる。学習目標や進路目標を設定させ、日々の取り組みの重要性を意識させる。課題等を活用して学習習慣を身につけさせる。
- ・項目8について、コロナ禍で一部の学校行事への参加を制限していたことが、ほぼコロナ禍前の水準に戻ったことで、保護者の評価が上がったと考えられる。
- ・項目12について、教室棟トイレの改修工事が完了した結果、評価が上がったと考えられる。今後も継続して校内美化を推進していく。
- ・項目14について、広報部を中心に、ホームページ等で学校の情報をタイムリーに発信している。広報活動についてPDCAを繰り返し向上を目指す。
- ・項目16について、保護者の満足度は高いが、生徒の評価がAになるような学校にするために、教員が知恵を出し合って教育活動を行っていく。各学年・各部署で取り組みを考える。

令和6年度 東播磨高等学校 学校評価 結果 (教職員)

分掌	評価項目	教職員					結果分析	改善方策
		評価4	評価3	評価2	評価1	平均		
総務	行事計画の立案と連絡調整の徹底に努める。	9.4	71.9	15.6	3.1	2.88	<p>・様々な行事がコロナ前の形態に戻ったことに加え、昨年度からの変更や改善すべき計画が多々あり、後手に回る場合があった。</p> <p>・全校生徒による特別棟のワックスがけや舎外清掃を実施することができた。</p> <p>・人権HRに向けた拡大人権研修会の実施が十分でなかった。</p>	<p>・より一層、見直しをもった行事計画の立案と各部・各学年との綿密な連携に努める。</p> <p>・清掃計画については、見直しをもって立案する。また根本的な修繕の必要がある箇所について、事務室とも協議をしながら進める。</p> <p>・研修会を通じて、人権意識の高揚に努める。</p>
						B		
	清掃区域の適正化を図り、環境整備に努める。	15.6	62.5	21.9	0.0	2.94		
					B			
3年間を見据えた人権LHR計画の推進と、職員の指導力向上を目指す研修会を立案・実施する。	6.3	56.3	34.4	3.1	2.66	<p>・人権HRに向けた拡大人権研修会の実施が十分でなかった。</p>	<p>・研修会を通じて、人権意識の高揚に努める。</p>	
								C
広報	HPを積極的に更新し、本校の情報発信の充実促進を行う。	15.6	62.5	21.9	0.0	2.94	<p>・HPのシステムを変更するのに時間がかかったが、おおむね積極的に更新することができた。</p> <p>・学校説明会、オープンハイスクール参加人数についてはおおむね目標をクリアしたように思う。訪問中学校の範囲を広げた広報活動が参加人数の結果として出たと思うが広報活動の動きが形となってあらわれにくいことがマイナスの結果に出ていると考えられる。</p>	<p>・本校の情報発信については、HPを中心に今後も行う。認証システムを簡略化することにより、各学年、各部から発信できるシステムを構築する必要がある。</p> <p>・学校案内、リーフレットの作成については前年度から準備を行い、中学校訪問段階には今年度の案内等を配布できるようにする。</p> <p>・広報ポスターを新たに作成し、中学校だけでなく、塾や公共機関等にも配布を行う必要がある。</p>
						B		
	学校案内・リーフレットの作成・配布を行い本校の魅力を発信させる。	15.6	71.9	9.4	3.1	3.00		
						B		
学校説明会・オープンハイスクールの参加人数確保のための広報活動を行う。	15.6	68.8	12.5	3.1	2.97	<p>・学校説明会、オープンハイスクール参加人数についてはおおむね目標をクリアしたように思う。訪問中学校の範囲を広げた広報活動が参加人数の結果として出たと思うが広報活動の動きが形となってあらわれにくいことがマイナスの結果に出ていると考えられる。</p>	<p>・学校案内、リーフレットの作成については前年度から準備を行い、中学校訪問段階には今年度の案内等を配布できるようにする。</p> <p>・広報ポスターを新たに作成し、中学校だけでなく、塾や公共機関等にも配布を行う必要がある。</p>	
								B

分掌	評価項目	教職員					結果分析	改善方策
		評価4	評価3	評価2	評価1	平均		
教務	学校教育目標に即した教育課程の編成および新教育課程を検討する。	3.1	84.4	12.5	0.0	2.91	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程3年目になる51回生からの教育課程改編に向けて、ある程度の方向性を示すことができた。 ・授業公開やアンケートについて、周知徹底が不十分であった。ただ、訪問指導、教育実習等の機会をとらえ、授業を公開し、意見交換することはできた。 ・新教育課程での校務支援システムの出欠入力や調査書等の作成もスムーズにできた。職員も操作に慣れ、業務の改善に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成については、よりよい教育課程の編成に向けて、今後も継続審議を行う。人文類型の選択科目については、さらに検討していく必要がある。 ・普段から、気軽に授業を見学し合える雰囲気を作り、公開授業の案内を明確にしている。 ・校務支援システムの設定でのミスを極力少なくし、さらに、業務の効率化をすすめる。それによって、生徒にかかわる時間を増やせるようにする。
						B		
	授業公開やアンケートを踏まえ、生徒の学力向上策を研究し、教師の授業力を高める。	9.4	56.3	28.1	6.3	2.69		
					C			
業務改善の一環として、出欠統計や成績処理など校務支援システムの効果的な活用を図る。	15.6	62.5	21.9	0.0	2.94	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程での校務支援システムの出欠入力や調査書等の作成もスムーズにできた。職員も操作に慣れ、業務の改善に繋がっている。 		
							B	
生徒支援(生指)	登校指導を全職員で行い生徒情報を共有することで、共通認識や理解に基づく一貫性のある指導を行う。	9.4	75.0	15.6	0.0	2.94	<ul style="list-style-type: none"> ・東播磨高校の生徒支援は大きな変革期のピークを終え、学校の雰囲気も少しずつ落ち着いてきている。教員全体も指導の行い方について、少しずつ落ち着いてきたのではないかと考える。生徒の様子を見ながら、教員の一貫性のある生徒支援の確立に向けて、引き続き登校指導時の気づきや支援の方法を吸い上げ、全校集会等で生徒・教員で共有が必要であると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活ルールや支援方法を全職員で共有することによって、教員が生徒に一貫性のある支援をしやすい体制が少しずつ整ってきた。その為に、全職員で取り組んでいる登校指導からの気づきや疑問点、支援の方法を共有できるように全校集会等を利用し生徒・教員の共有を目指す。 ・生徒会活動に関しては、引き続き教員の支援のもと生徒(生徒会)が主体的に効率よく活動できる行事運営方法へ改革を推し進めていく。その為にも生徒会行事運営改革に際し、生徒会執行部専属の教員(部顧問)の配置が必要であると考える。
						B		
生徒会活動・ホームルーム活動の活性化と充実のため、生徒会を中心とした学校行事の運営を行う。	25.0	71.9	3.1	0.0	3.22	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の行事運営方法では、生徒(生徒会)だけで運営することは難しいように感じ、教員の支援のもと、生徒が主体的に活動できる行事運営を目指し生徒(生徒会)とともに学校行事の運営ができ始めている。 		
							B	

分掌	評価項目	教職員					結果分析	改善方策
		評価4	評価3	評価2	評価1	平均		
保健	保健だよりや集会等の健康教育、個別の保健指導を通じて、個々の健康課題に対応できる能力の向上を目指す。	9.4	84.4	6.3	0.0	3.03	<p>・各種講演・講話、保健だよりを通して、生徒が心身の健康と安全について知識を得る機会を設けることができた。</p> <p>・教員、生徒の理解・協力のもと、熱中症対策及び感染症対策を継続して行っているが、特に感染症対策については意識が薄れているように感じる。</p> <p>・カウンセラー、学年団、関係職員、状況に応じて外部機関と連携し、生徒や保護者の心身のサポートに努めた。</p>	<p>・説明会の意図を明確にし、目的意識をもって生徒たちが主体的に参加できるような準備が必要である。</p> <p>・進路通信が発行が、不十分出会ったように感じる。些細なことでも、学年団や保護者の方に情報を提供できる方策を考えたいと思う。</p> <p>・保護者だけでなく、生徒自身がより活用できるような「進路のてびき」を作成したい。実施に受験を終えた生徒にアンケートをとるなど、内容の充実を図る。</p>
	生徒保健委員会による熱中症予防・感染症対策などの働きかけを通して、全校生の健康に関する意識を高める。	21.9	78.1	0.0	0.0	3.22		
	生徒個々の心身の健康問題に応じて、学年・キャンパスカウンセラーと連携し対応に努める。	25.0	75.0	0.0	0.0	3.25		
キャリア支援(進路指導関係)	学部学科説明会(1年)大学模擬授業(2年)大学説明会(3年)などの進路行事を企画・実施する。	18.8	71.9	9.4	0.0	3.09	<p>・大学説明会などの進路行事は、予定通り実施できたが、各学年に行事の意図を明確に提示するべきであった。</p> <p>・新課程入試が始まり、入試の変化に対する情報提供が、各先生方や保護者に向けても、不足していたように感じられる。</p> <p>・「進路のてびき」は、本校の入試データ、最新の入試動向などを詳細に見ることができ、保護者の方々にも、入試についての情報を提示することができたと感じる。しかし、進路説明会などの実施については、キャリアの方から実施を働きかけるべきであった。</p>	<p>・説明会の意図を明確にし、目的意識をもって生徒たちが主体的に参加できるような準備が必要である。</p> <p>・進路通信が発行が、不十分出会ったように感じる。些細なことでも、学年団や保護者の方に情報を提供できる方策を考えたいと思う。</p> <p>・保護者だけでなく、生徒自身がより活用できるような「進路のてびき」を作成したい。実施に受験を終えた生徒にアンケートをとるなど、内容の充実を図る。</p>
	新課程入試やそれに伴う受験環境の変化に対応できるよう情報収集し、生徒・保護者に提供する。	18.8	68.8	12.5	0.0	3.06		
	本校の実情に合った「進路のてびき」を作成し、また生徒・保護者の進路説明会などで学年と連携を図る。	21.9	65.6	12.5	0.0	3.09		

分掌	評価項目	教職員					結果分析	改善方策								
		評価4	評価3	評価2	評価1	平均										
キャリア支援（探究推進関係）	授業計画の見直しを図り、各活動における目的を明確化する。	12.5	56.3	28.1	3.1	2.78	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省をもとに授業内容は修正している。新着任オリエンテーション、指導案、担当者会議で活動の目的は伝えてきたが、理解できていないということを再確認した。 ・授業で使う資料はTeamsで共有し、グループ活動もオンラインで行えるようにした。生徒の方は徐々にオンラインでの作業に慣れてきているように思われる。 ・学問探究、エナジード、探究のテーマ設定などを通して、自分自身の在り方について考えるきっかけを与えている。昨年度から進路・探究につながるイベントの告知をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは気を遣って打ち合わせや研修会は控えてきたが、実施の回数を増やす方向で検討をする。 ・使わなければならないので、引き続きICT活用を前提とした授業計画を立てる。 ・与えられたきっかけを活かすことができるような雰囲気づくりを職員に願っている。 								
	<table border="1"> <tr><th>評価4</th><th>評価3</th><th>評価2</th><th>評価1</th></tr> <tr><td>12.5</td><td>56.3</td><td>28.1</td><td>3.1</td></tr> </table>					評価4			評価3	評価2	評価1	12.5	56.3	28.1	3.1	C
	評価4	評価3	評価2	評価1												
12.5	56.3	28.1	3.1													
探究における協働学習を効果的にするために、ICTの積極的な活用を促す。	25.0	68.8	6.3	0.0	3.19	B										
探究活動を通じて自分の在り方を見つめ直す機会を与え、進路意識の向上につなげる。	6.3	75.0	18.8	0.0	2.88	B										
<table border="1"> <tr><th>評価4</th><th>評価3</th><th>評価2</th><th>評価1</th></tr> <tr><td>6.30</td><td>75.0</td><td>18.8</td><td>0.00</td></tr> </table>					評価4		評価3	評価2	評価1	6.30	75.0	18.8	0.00			
評価4	評価3	評価2	評価1													
6.30	75.0	18.8	0.00													
第1学年	【学習・進路】基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学ぶ姿勢を育てる。	9.4	84.4	6.3	0.0	3.03	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や体調管理などの基本的な生活習慣は身につけている。特に欠席者が少なく元気な学年という印象である。学習については、与えられたことを最低限クリアしていくという印象であり、自らの進路を意識し積極的に学ぶ、という姿勢はまだ見受けられない。人間関係の形成については、互いが個性を認め合い、互いの違いを受け入れ他者を認める雰囲気が全体的にある。優しい性格の者が多い学年である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習については3年間を見据えた導きが必要であると感ずる。いわゆる一般的な学力はもっと伸ばしていく。進学校として模試成績等では偏差値50を下回ることが無いようにしなければならない。生徒の潜在能力の高さに甘えるのではなく、教員側が生徒のやる気に火をつけるような声掛けができるようにならなければならない。明確な目標設定をし、スモールステップを踏ませていけるように細かく指導計画を見直す必要がある。リーダーの育成も課題である。生徒の自己肯定感を高め、生徒が成功体験を積み重ねられるように、これも導き方を工夫していく。 								
	<table border="1"> <tr><th>評価4</th><th>評価3</th><th>評価2</th><th>評価1</th></tr> <tr><td>9.4</td><td>84.4</td><td>6.3</td><td>0.00</td></tr> </table>					評価4			評価3	評価2	評価1	9.4	84.4	6.3	0.00	B
	評価4	評価3	評価2	評価1												
9.4	84.4	6.3	0.00													
【生指・保健】学校行事やクラス活動、部活動を通じて心身の健康を図る。	12.5	84.4	3.1	0.0	3.09	B										
【生指・生活】基本的な生活習慣を身に付け、信頼できる人間関係を育ませる。	9.4	90.6	0.0	0.0	3.09	B										
<table border="1"> <tr><th>評価4</th><th>評価3</th><th>評価2</th><th>評価1</th></tr> <tr><td>9.4</td><td>90.6</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> </table>					評価4		評価3	評価2	評価1	9.4	90.6	0.0	0.0			
評価4	評価3	評価2	評価1													
9.4	90.6	0.0	0.0													

分掌	評価項目	教職員					結果分析	改善方策	
		評価4	評価3	評価2	評価1	平均			
第2学年	【学習・進路】進路意識を高め、自律的な学習習慣を確立させる。	9.4	81.3	9.4	0.0	3.00	<p>・進路意識の高まりについては、1学期より主体的に生徒が行動するような試みを実施し、進路実現を考えるきっかけがつかめたことが大きい。また中堅学年としての自覚や他者への配慮などを含め、何事も自分事として捉える意識は学校内での行事や修学旅行などを通して育まれつつあると感じられる。特に修学旅行では、時間やルールを順守し、他者を慮る行動が見られた。</p>	<p>・進路意識については2学年の3学期に第一志望校を考えさせ、3学年ではスタート時点から意識した指導を行っていく。教員が情報を共有し、目標の実現のための計画の立て方や取り組み方への指導を行っていく。各種の行事についての姿勢や最高学年としての自覚はこれまで培ってきた個々の力や仲間との絆を發揮し、経験することの大切さを感じつつ、一人一人が達成感を感じられることを目標に指導していく。</p>	
	【生徒指導】中堅学年としての自覚を持ち、学習と部活動・生徒会活動の両立に励ませる。	12.5	84.4	3.1	0.0	3.09			B
	【生指・生活】集団の中で自らの役割を自覚し、他者に配慮できる姿勢を育てる。	9.4	84.4	6.3	0.0	3.03			B
第3学年	【学習・進路】進路実現に向けて、確かな学力を身に付けさせる。	9.4	87.5	3.1	0.0	3.06	<p>・1年次より「3年生で18歳、成人となる」ことを意識させ続けたことが、全体的にポイントの上昇につながったといえる。「最高学年としての模範的行動」については、「惜しまれて卒業する」ことを呼びかけてきたが、元々の生徒のキャパシティ不足を補うにはあと一歩足りなかったようである。</p>	<p>・今の本校生の特徴として、受身で、視野が狭く、キャパシティが足りず、全体を見ることが苦手という傾向があり、「行動を起こすことができる生徒」を増やしていく必要があるが、地道で長期的なビジョンのある教員側の取り組みも必要である。</p>	
	【生徒指導】最高学年としての意識を持ち、下級生の模範とならせる。	12.5	71.9	15.6	0.0	2.97			B
	【生指・生活】社会の一員としての自覚と責任を持たせる。	12.5	78.1	9.4	0.0	3.03			B

分掌	評価項目	教職員					結果分析	改善方策
		評価4	評価3	評価2	評価1	平均		
学校運営	【組織体制】本校は、教育目標の達成に向け、各部署の連携や情報の共有に努めるなど組織的な学校運営を推進している。	6.3	56.3	34.4	3.1	2.66	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署の連携や情報共有は改善の傾向にあるが、依然として課題を感じている割合が多く、協力した取り組みが必要である。 ・健康面の推進、ハラスメントへの意識が高まってきた。 ・地域との連携については、探究活動・ふるさと貢献活動・ボランティア・部活動等を通じての交流が活発になってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、組織改編を行い、各部署の役割を明確にし、学校運営に取組んでいる。今後は、PDCAを働かせ、各部署の連携や情報共有を深めるように取り組む。 ・風通しの良い職場づくりのために、職員室に打ち合わせスペースを設置するなど、職員の職場環境づくりを推進する。 ・探究活動・ふるさと貢献活動・ボランティア・部活動等で地域活動を活発に行った。今後は、コミュニティースクール実施に向けた体制づくりを推進する。
						C		
	【環境衛生】本校は、ハラスメントのない健康で明るく風通しの良い職場づくりを推進している。	6.3	71.9	21.9	0.0	2.84		
					B			
【地域連携】本校は、教育活動を通じて地域社会に貢献し、地域から信頼される進学校としての学校運営を推進している。	6.3	81.3	9.4	3.1	2.91		B	